

---

# オタカムイの嘆き

伊藤 真

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

オタカムイの嘆き

### 【Nコード】

N3013V

### 【作者名】

伊藤 真

### 【あらすじ】

「あのじじい、いつも砂浜掘っているんだ。どうしてだろうな？」

勇作と満は興味本位で調べ始める。その理由には歴史の裏側があった……。

## プロローグ

「父さん、また転勤することになった。」

そんなモン言われなくても分っている・・・。

目の前にさめたステーキが、白い丸い皿の上にグリーンピース、マッシュポテトと一緒に盛りられている。どうせ、近所のスーパーで買った輸入牛のステーキだ。我が家は転勤族で、転勤になると必ず夕食にステーキが出る。ステーキは好きだが、この時のステーキはただ分厚い無味の弾力のあるものを咀嚼しているに過ぎない。

「で、今度はどこに転勤なの？」 ぼくは、おろしポン酢をまんべんなくステーキにかける。

「室蘭という、北海道にある町だ。自然もいっぱいだ。季節になると岬から鯨も見えるらしいぞ。ああ、そういえばあの総理大臣の出身地だ。」 父は、ステーキを噛み砕きながら、総理大臣の名前を出す。初耳だった、北海道の出身だったのか。うなずきながら、僕も釣られてナイフとフォークを動かす。

「お父さん、ワインでもどう？」 母が尋ねる。

「おお、いいねー、飲むか。」

「待ってて、今、持ってくるから。勇ちゃんはオレンジジュースでいい？」

「いいけど、いい加減勇ちゃんって言うのやめてくれない？ 勇作でいいから。恥ずかしい。思春期の子供の気持ちも考えて欲しいよ。」

中学三年生だよ？」

「あら、反抗期？分かったわ、勇ちゃん。」私もそんな時代あったのかしら、とつぶやいて母はクラスと、飲み物を取るために立ち上がった。

呆れ顔になりながら、部屋を見回す。部屋の右隅に母と父の結婚式の写真がある。父と母は同じ大手製鉄会社に勤めていた。父は製鉄所で働き、母は経理をしていたらしい。結婚後は、母は専業主婦となった。父も役職も上がり、転勤もたびたびするようになった。それでも父は、単身赴任はしなかった。「家族が一番」と考えているからだ。だからさびしい思いもしなかった。しかしこの年頃になると、単身赴任して欲しい気持ちのほうが高まってくる。

せつかくできた友達と、別れるのが辛くて仕方ないのだ。自分だけ奈落のそこに放り込まれた気分だ。母と父によって……。

そんなことを思いながら、ぼんやり写真を眺めていると「勇ちゃんもちゃんと結婚できるから。」と言い母はオレンジジュースの入ったコップを僕の前に差し出した。そういうことじゃないとぼくは顔を使って母にアピールする。

「そんなしかめ面しないで、じゃあ、転勤しても家族で頑張ろうとということ乾杯しよう！」

母には伝わらないようだ、あきらめてコップを持つ。

「かんぱーーーーい！！！！」

グラスとグラスが合わさる、軽やかな音が部屋に響いた。



## プロローグ（後書き）

初投稿です。プロローグ書きました。落ちが決まっているのですが・・・。歴史ミステリーです。少しずつ投稿していきます。コメント、ご指摘よろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3013v/>

---

オタカムイの嘆き

2011年10月9日14時17分発行